学校教育実践コース（社会科教育）、外国史Ⅰ

現代社会に生きる私たちと西欧の歴史

—European history for today: What can we learn from the past?—

社会科教育・森　貴子

1. 講義の概要

2012 年度・後期・金曜日・４限開講の外国史Ⅰは、二回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。

(1)講義の目的

本講義では、現代社会の様々な問題を、資本主義の生まれた西欧を場として歴史的・長期的観点から捉え直させ、今という時代がどんな時代であるのかという「歴史感覚」を身につけさせることを目的とした。また、中学校社会科や高校地歴の教員を目指す学生が多く受講するため、中世から近現代について最低限必要とされる西洋史の知識を獲得させたいという思いもあった。

具体的な目標としては、中世から近代の歴史を、人類の生活形態、社会経済様式などに注目しつつ概観することで、資本主義成立以前と以後で生活がいかに変化し、そこにどのような問題が存在するかについて、理解させることを目指した。

(2)講義の詳細

授業は、基本的に、講義形式で行われた。『あなたが歴史と出会うとき』(堺　憲一著、名古屋大学出版会、1989 年）を主なテキストとしつつも、そこに独自な内容を織り込みながら中世農村から近代資本主義社会までを概観し、現代社会との関連で問題を整理した。扱った内容は、主として、荘園制（領主＝農民関係／農村共同体／農業制度）、中世都市（都市共同体と自治／ギルド）、大航海時代（覇権の変遷とその要因）、農村工業とその展開、資本主義的精神の成長、そして産業革命とその功罪である。

学生に対しては、テキストについて、各回の授業で扱う範囲を事前に読み込み、自分なりの理解をしておくことを要求した。また、各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して、学生による考察を手助けすると同時に、ビデオなどの映像資料も利用して、各々の時代をイメージしやすいよう工夫した。

２．授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした（2013 年２月 12 日実施)。受講登録者３１人中､アンケート回答者は３１名(人間社会デザインコース二回生１３名／社会科教育二回生１２名／技術教育二回生２名／教育学二回生１名／保健体育二回生１名／発達障害二回生１名／教育学研究科社会科教育二回生１名）であった。

◎ 問 1ー９は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

＜評価基準＞

５：強くそう思う（非常に良い）
４：ややそう思う（良い）
３：どちらとも言えない（普通）
２：あまりそう思わない（あまり良くない）
１：全くそう思わない（良くない）

＜問い＞

問１　この授業への出席状況は
問２　授業のテーマ・目的は、明確でしたか
問３　担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか
問４　担当教員は重要な点を適切に説明しましたか
問５　板書は見やすかったですか
問６　配付資料は有用でしたか
問７　授業に対する教員の熱意・工夫が感じられましたか
問８　授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか
問９　授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問１	18	10	1	2	0
問２	19	12	0	0	0

問３	22	8	1	0	0
問４	22	8	1	0	0
問５	17	11	3	0	0
問６	17	12	2	0	0
問７	19	11	1	0	0
問８	8	16	7	0	0
問９	18	13	0	0	0

＊問１ー９に対するコメント

問３：（教員が）ずっと話しっぱなしなので、考える時間もあったらいいと思う。

問６：カラーでよかった

問８：高校の時に世界史をとっていなかったので、先生にとっては当たり前の知識が自分にはなく、難しいところもあった

問９：高校で日本史専攻だったが、外国史にも興味を持てた

◎ 問 10､11 は記述式で解答を求めた｡以下、紙幅の制約上､内容を整理して取り上げる。

問 10　この授業で良かったと思う点､印象に残った点を挙げてください。

資本主義社会の成立の影響など、一つのことを詳しく学べて、見識が深まった／物事の過程の変遷を、背景から見ることができた／高校の世界史よりさらに深いところを学べて、楽しかった／中世ヨーロッパを詳しく学ぶことができ､ヨーロッパのイメージが変わった。美しく、おしゃれだと思っていた／ビデオ・写真・細密画などカラーの視覚資料のおかげで、時代背景がよく理解できた（複数回答)。歴史を感じることができた／ビデオと授業内容がうまく関連づけられていた／テキストと照らし合わせながら授業が進められたので、テスト勉強がやりやすく、分かりやすかった／板書が読みやすく、まとまっていて理解しやすかった／板書が多いため、眠くならず、頭に入る／説明が分かりやすかった／テキストにはない、オリジナルの授業が面白かった／教員が楽しそうに授業をしていた点／教員が熱くてよかった

問 11　この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

板書が多すぎる（教員の話に集中できないことがあった）／板書が早すぎる／ビデオを活用する方法があればよい（見るだけのようになってしまっていた）／テスト勉強の時、テキストをよく読んだが、普段から読んでいたら授業がもっとわかりやすかったと思う。授業までにどこを読んでくるかを、指示した方がよい（←実際の講義では指示している）／資料の利用方法について。何がどの内容を指すのか、分かりにくかった／キーワードには色を付けて強調してほしい

３．コメント
−授業の達成度・今後の課題−

学生による五段階評価およびコメントから推察できるように、近代化の過程とその背景を大枠で把握するという外国史Ｉの目的は、ある程度は達成できたと思う。本講義について行った、三年前の授業評価アンケートの結果と比較しても、低い評価（基準の２や３）が減少し、またその際の要望を取り入れて準備するようになった、カラーの配布資料についても評判が良かった。ただし、板書については評価が分かれており、この点は以前から変わっていない。

三年前のこのコメント欄では、歴史の被構築性を意識した講義の実現を、今後の課題として掲げていた。そのために、本講義で取り上げる内容や近代化のプロセスは、歴史学の伝統的見解に基づくものであること、現在では異なった見方、考え方も提示されていること（例えば、農村工業から資本主義を説明する古典的見解に対し、現在では、中世イタリア諸都市の採用した政策・行動様式が注目されていること、などなど）を、機会があるごとに強調したつもりである。これは、歴史がある特定の「観点」から描き出されていること、捨象された多くの歴史的事実や解釈があること、だから自らの問いかけ次第では、新しい歴史像を構築できる可能性があること、このような、要するに歴史に対する態度・歴史との関わり方を涵養するために、必要不可欠な作業だと思われる。その効果を今回のようなアンケートから推し量ることは困難であるため、今後はアンケートの内容や方法を工夫する必要がある。